

学生の主体的学びを育み、
未来開拓力に優れた人材を育成

文部科学省「スーパーグローバル大学創成事業」採択校

世界へ! MEIJI 8000

CONTENTS

明治大学の国際化の歩み

SGU 事業概要

3つのグローバル人材育成プログラム

各学部・大学院の特色ある教育

世界都市東京からの新たな知の創造拠点

世界へ！ MEIJI 8000

～新たな明治の構築に向けて～



明治大学長 福宮 賢一

昨今、新聞などのマスメディアで、「グローバル化」という言葉を見ない日はないように思われます。それは、現代社会を表すキーワードであるとともに、我々高等教育機関はもちろんのこと、社会全体で取り組まなければならない極めて重要な課題であることを示唆しています。

このような中、昨年、大学改革と国際化を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備支援を目的とした、スーパーグローバル大学創成支援事業が公募されました。本学はグローバル化牽引型(タイプB)に申請し、24大学中の1校に採択されました。本学の教育の質的転換とさらなる国際化を推進する上で、同事業に採択されたことは、本学にとって大きなターニング・ポイントであることは間違いありません。

本学が採択された構想「世界へ！ MEIJI8000—学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成—」は、これまでの国際化拠点整備事業(グローバル30)選定や国際化に関する3つのGPの獲得に加え、数年来、検討を重ねてきた「総合的教育改革」などの不断の大学改革を土台としています。また、「権利自由」「独立自治」の建学の精神をいかに体现するか、そして、どうすれば学生が平和で希望に溢れた社会を築くための力を体得できるか、これらをひたすら考え抜くとともに、あるべき10年後の本学の姿を思い描き、その実現を目指した構想であります。

特に、8000という数字は、本学の毎年の卒業生数を示しています。つまり、世界で活躍できる「未来開拓力」に優れた8000人のグローバル人材を、毎年世界に送り出すことを意味しています。大学は徹底して論理的思考力を鍛え、物事の本質を見極めるための「科学の目」を涵養する場です。この度のスーパーグローバル大学創成支援採択を契機として、本学の教育力・研究力を結集し、次代を託すことができる若者、すなわち、確かな論理的思考力を有し、「未来開拓力」に優れた有為な人材を育成していく所存です。

本取り組みをはじめとして、各方面からの本学に対する期待は、年々強くなっています。その期待に応えるべく、成熟国家としての本質的な意味での日本のグローバル化を担うためにも、本学に課された使命は非常に大きいものがあります。「次代を拓き、世界へ発信する大学」として、そして、日本の大学の国際化をリードし、世界の大学と伍していくトップ・ユニバーシティとなるためにも、本構想を着実に実行し、新たな明治大学を構築してまいります。

末筆になりますが、関係各位のご支援・ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

明治大学の国際化の歩み

2008年6月	文部科学省「グローバルCOEプログラム」採択
2009年4月	先端数理科学インスティテュート MIMS Ph.D.プログラム(英語学位コース)設置
2009年7月	文部科学省「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」採択
2009年10月	国際連携機構の設置(国際戦略におけるガバナンス強化)
2010年4月	ガバナンス研究科英語学位コース設置 経営学研究科経営学専攻ダブルマスタープログラム英語学位コース設置
2011年4月	国際日本学部イングリッシュトラック(英語学位コース)設置
2011年4月	明治大学北京事務所開設
2012年9月	文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(タイプB)」採択 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～」採択 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択
2013年4月	理工学研究科建築学専攻建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース(英語学位コース)設置
2013年5月	明治大学アセアンセンター(タイ・バンコク)開設
2014年3月	国際大学協会(IAU)によるInternational Strategies Advisory Services(ISAS)受審
2014年4月	グローバルガバナンス研究科(英語学位コース)設置
2014年9月	文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)」採択

「グローバル30」の効果と英語学位コース

文部科学省「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」は、①英語学位コースの設置、拡充、②入口から出口までの体系的留学生受け入れ、③大学自体の国際化、④海外共同利用事務所(8大学が設置)などの諸施策からなり、13大学全体では、大学院123コース、学部33コースの英語学位コースが設置され(2013年末現在)、留学生は30,027人(8.7%)、外国人教員比率は7.0%と、日本の大学の国際化の拠点として、大きな役割を果たしました。

本学でも、留学生数は1,600人と当初目標をほぼ達成し、また外国人教員比率は目標値を上回りました。

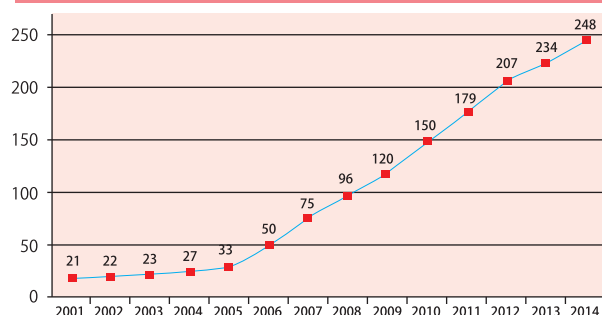
英語学位コースは、同事業終了後の2014年4月にも新たにグローバルガバナンス研究科が設置され、6コースになるなど、拡充しました。

さらに、留学生への日本語教育、奨学金拡充、寮の充実、学生相談室の設置、就職活動サポートなど様々な施策が取られました。

また大学のブランディングとしても、グローバル30は大きな効果があり、協定校数はグローバル30採択前の80校程度から、44か国・地域、248校へと飛躍的に増大しました。

英語学位コース名称	開設年度
先端数理科学インスティテュート MIMS Ph.D.プログラム	2009年度
ガバナンス研究科英語学位コース	2010年度
経営学研究科経営学専攻ダブルマスタープログラム英語学位コース	2010年度
国際日本学部イングリッシュトラック	2011年度
理工学研究科建築学専攻建築・都市デザイン国際プロフェッショナルコース	2013年度
グローバルガバナンス研究科	2014年度

海外協定校数の推移(2015年3月現在)

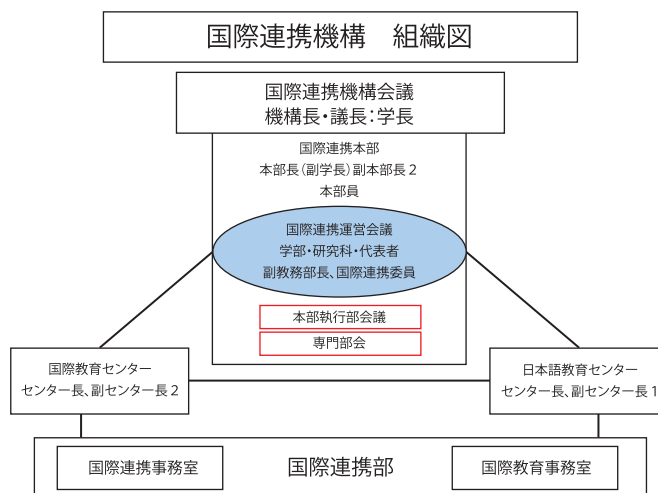


国際連携機構の設置

全学的な国際戦略策定のための企画・調査を一元的に行い、国際交流・連携の情報共有と調整を図るため、2009年10月に学長を機構長とする国際連携機構を設置し、その下に「国際連携本部」「国際教育センター」「日本語教育センター」を置きました。

また2012年度から「国際連携運営会議」を設置、各学部や研究科との連携を強化し、学部・研究科の取組みと大学全体の国際化をより実効的・有機的に結び付けることが可能な体制となっています。

国際戦略におけるガバナンス強化により、国際化を全学一体で進めています。



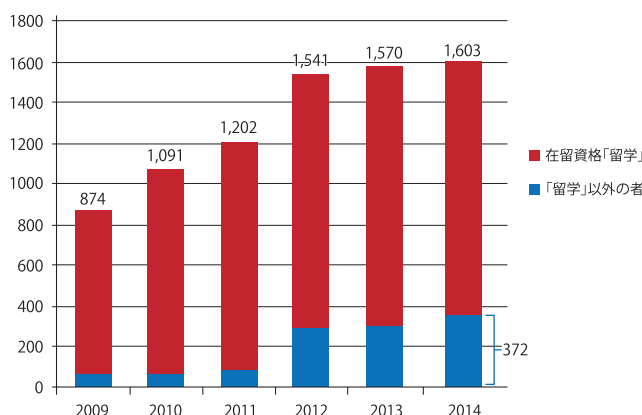
外国人留学生受け入れの増加

英語コースの設置に加え、各学部・研究科での英語授業の増加などの外国人留学生受け入れの環境整備が奏功し、2009年度以降、本学で学ぶ留学生は着実に増加しています。また夏期休暇期間中などに実施される短期プログラムは、国際連携機構や各学部で開発されており、中長期的にみると正規留学生や交換留学生の増加に寄与しています。

短期受入プログラム

Law in Japan
Cool Japan Summer Program
日本語短期研修プログラム
政治経済学部プログラム (南カリフォルニア大学、ノースイースタン大学、SWU等)

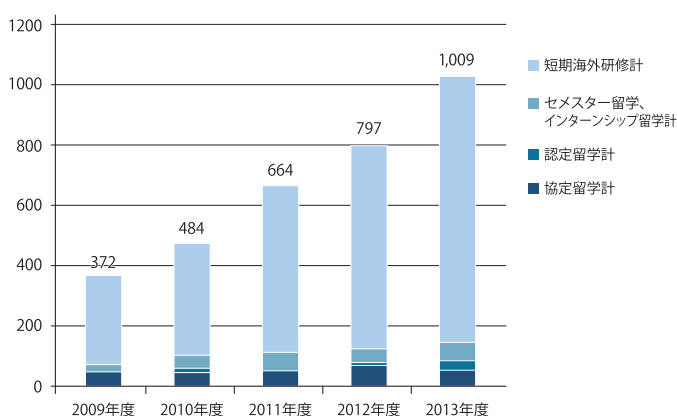
外国人留学生年間受入総数推移



海外留学派遣者数の増加

従来の協定留学(交換留学)と認定留学だけでなく、学生の興味、関心や計画に合わせて、留学プログラムを継続的に開発し、その多様化を図っており、海外留学派遣者数は増加しています。例えば、アメリカの名門大学(カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア大学アーバイン校)のサマーセッションに派遣するプログラムやフロリダのディズニーワールドでの海外インターンシップ、各学部での専攻内容に即した専門科目の見識を深めるために実施される学部独自の短期プログラムやsemester留学プログラムを開発、実施しています。

海外留学経験者数(外国人留学生含む)推移



世界へ! MEIJI 8000

～学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成～

「MEIJI8000」とは、毎年の卒業生8000人すべてを「グローバル化によって価値観が多様化した世界で、主体的に学び、自ら考え、意思決定し、新しい価値を創造する人材（未来開拓力に優れた人材）」として社会に送り出す10年間のプロジェクトです。そのために、新しい時間割と柔軟な学事暦の導入、海外留学を容易にするアクティブ・タームを展開し、10年後には2人に1人が海外留学、また全学生が国内外で国際体験することを目指します。



総合的教育改革

このプロジェクトの基盤となるのが「総合的教育改革」です。学生・教員のモビリティを高める改革として柔軟な学事暦の構築に基づく「アクティブ・ターム」を設定します。アクティブ・タームとは、必修科目を配置しない学期をつくり、夏季または春季の休業期間と組み合わせ、学生が主体的に活動する期間を確保するものです。これを活用すれば、短期留学、海外インターンシップ、ボランティアなど様々な学びが容易になります。また、教員も海外協定校などで授業を行うことができます。

1 主体的学びを支える新たな教育方法

教育の質を保証し主体的に学ぶ学生を育てるために教員のFDと教育方法の改革が必須です。新たな授業方法を検討するとともに授業設計やテキスト開発等を支援可能なアクティブ・ラーニングのための専門家を配置し遠隔授業の対応可能な教室を増やし、さらにICTを活用した反転授業や産業界と連携したアクティブ・ラーニング、PBL、ケースメソッド等を推進します。

2 世界に飛び出す100の国際プログラム

「未来開拓力」を身に付けるためには主体的学びが大切であり、その最も重要な手段は海外への学生の送り出しです。そして、留学を具体化させるのが「世界に飛び出す100の国際プログラム」です。専門科目を英語で学ぶことで世界に通用する強靱な知識・思考力と英語スキルの獲得が可能です。留学支援機関のELS等と連携した留学プログラム、各学部で実施している留学プログラムなどを全学的に展開して学生が世界に飛び出すための100の扉を用意します。

3 学生による学生支援制度

主体的学びを促進するため、学生同士の学び合い（ピア・ラーニング）を積極的に推進していきます。例えば、留学帰国学生や留学経験OB・OG達が、これから留学を希望する学生にアドバイスをしたり、留学フェアなどの実施サポートをする仕組みを構築します。教室内だけが学びの場ではなく学生自らが教室を超えて主体的に活動し、学内のあらゆる施設で多層的に学んでいきます。

4 戦略的海外拠点と国際ネットワーク

タイに設置した「明治大学アセアンセンター」、マレーシアに設置した「明治大学マレーシア・サテライト・オフィス」に加え、シンガポール国立大学（NUS）との研究拠点の相互乗入れや香港大学SPACEとの教育拠点連携を計画しています。チュラロンコン大学、タマサート大学などは、アセアンセンターを利用した共同学位プログラムを計画しています。また、現在の約250の協定校のうち15校を戦略的協定校に選定し授業の相互乗入れなどを拡充するとともにICTで結びネットワークを強化していきます。

5 国内での国際体験空間形成

毎年4,000人受け入れる留学生と交流するプログラムであり、海外留学をしなくても国内で国際体験を可能とする場と機会の提供のことで、外国人留学生同士・日本人学生と外国人留学生との交流を目的に組織されたキャンパスメイト、日本人学生が外国人留学生の企業訪問等の案内役として交流するプログラムなど特色ある取組を全学的に展開していきます。さらに、地域連携活動では、外国人留学生も参加することで相乗効果を引き出します。4,000人を送り出し、4,000人を受け入れ、世界で活躍できる人材育成のダイナミックなサイクルを生み出していきます。

6 研究拠点を活かした教育の高度化

本学は、政治・経済・文化のあらゆる情報が集中する世界都市東京の中心に4キャンパスを有しています。立地・交通アクセス等の利便性からも国際会議等のイベントは多く開催されており知的交流が活発です。また、政府と連携した新エネルギープロジェクト等、多種多様な研究拠点を有しており、これら国際的に活動する研究活動に他学部・研究科の教員や学部生・大学院生・外国人留学生を関与させ教育の高度化を図ります。本学が築いてきた国内ネットワークを活かし、東京とその他地域を結ぶことで知の裨益を日本全体に広げます。

3つのグローバル人材育成プログラム

スーパーグローバル大学創成支援のほかにも、文部科学省が公募する「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」のプログラムに3件の取り組みが採択されています。3つのプログラムの共通目標は次の通りです。

「グローバル化社会において求められる人材として、深い専門知識に裏付けられた論理的思考力と、異国理解や人類愛への共感に支えられた豊かな教養を持ち合わせた、未来開拓力のある学生を育成します。」

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」

プログラム名称 明治大学「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」

今後、アジア太平洋地域そしてアフリカ地域を中心として、経済・社会のグローバル化が一層深化し、国境を超えた経済・社会・文化活動が急速に展開することが予想されます。その一方で、平和・環境・人権・災害などの課題もまたグローバル化・複雑化し、既存の専門分野を超えた取り組みが必要となってきます。

明治大学政治経済学部では、これからのグローバル社会に対応するため、強い「個」と高いコミュニケーション能力を有し、他者・多文化への洞察力を備え、それぞれの専門領域において活躍できる人材を育成することを目的とし、先進的な取り組みを行っています。

これらの取り組みを通じて、政治経済学部は明治大学の国際化をさらに推進し、世界に貢献する「グローバル公共人材」育成の拠点となることを目指します。

上記のようなグローバル人材像をふまえ、政治経済学部へ入学した学生が卒業・終了時に習得すべき具体的能力は、次のようなものです。

■異文化に対する洞察力

グローバル社会の中での異なる文化・背景を持った他社の理解力

■使命感と論理観

強い「個」を基準にしつつ「個」に閉じこもらず「個」をつなぐ力

■実践的な専門知識

課題解決現場志向の専門知識

■語学的・能動的コミュニケーション能力

他者の意見を理解し自分の考えを効果的に伝える能力

プログラムの特徴

明治大学「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の取組について、以下に特徴的な留学プログラムやカリキュラムをご紹介します。

ダブルディグリー・デュアルディグリープログラム

21世紀の次の10年には、アジア太平洋地域はグローバル経済発展の中核地域となり、国境を超えた経済・社会・文化活動が、我々の予想をはるかに超えたスピードで展開されることは間違いありません。

こうした歴史的な地域構造転換の中で、地域内の多様な文化に対する鋭い感受性と洞察力を備えながら、同時に自らの意見を明確に表明し実行しうる能力を備えた人材、いわゆる「グローバル人材」を生み出すことが強く求められています。

このような人材を生み出すべく、ノースイースタン大学(米国) 社会人文学部及びテンプル大学(米国) 教養学部をパートナーとする、明治大学と海外大学の学位が同時に取得できる学部間「ダブルディグリー・デュアルディグリープログラム」を2014年度より実施し、「国際的教育の協働プラットフォーム」の構築を目指しています。

ノースイースタン大学とのダブルディグリープログラムでは、同大学へのトランスファー制度を使って、社会人文学部政治学科へ留学し、修得した単位を明治大学の単位として認定することで、両大学の学位を得ることができます。3年次の春学期終了まで明治大学に在籍し、9月の秋学期からノースイースタン大学に4学期分在籍し、所定の64単位を修得することで、4年2ヶ月で政治経済学部の学士とノースイースタン大学の学士を取得することができます。

4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月	3月卒業
1年		2年		3年		4年		
1	2	3	4	5	6	7	8	
※明治大学(124卒業要件単位中110単位以上習得)					※残りの4～14単位は、ノースイースタン大学の1～3学期までに習得した単位を認定。			
24単位	24単位	24単位	24単位	24単位				

★留学中に有給(or無給)のインターンシップに参加し、アメリカ社会での実践的な社会経験を積むことが可能。
※本人の希望により、明治大学にさらに一期在籍して9月卒業も可。但し、明治大学の授業料は発生する。

9月	1月	6月	9月	1月	5月卒業
1	2		3	4	
※ノースイースタン大学(64単位)					
16単位	16単位	★Co-op	16単位	16単位	

テンプル大学とのデュアルディグリープログラムは、4年次の春学期終了まで明治大学に在籍し、かつ9月の秋学期からテンプル大学の教養学部修士課程に4学期分在籍し所定の単位を修得することで、5年2ヶ月で政治経済学部の学士とテンプル大学の修士を取得することができます。

4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月	3月卒業
1年		2年		3年		4年		5年		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
※明治大学(124卒業要件単位中115単位以上習得)						※残りの1～9単位は、テンプル大学で1～3学期までに習得した単位を認定。				
24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位				

※本人の希望により、明治大学にさらに一期在籍して9月卒業も可。但し、明治大学の授業料は発生する。

9月	1月	6月	9月	1月	5月卒業
1	2		3	4	
※テンプル大学(30単位修得)					

トップスクールセミナー(国内留学体験)

政治経済学部では、世界各国の「トップスクール」から教員・研究者を、客員教員・特任教員として短期間あるいは数年間招へいしています。各教員は、政治学、経済学、社会学、行政学、歴史学といった専門分野の講義を英語で実施します。

これにより、学生は日本にいながら、特別な費用をかけずに世界の「トップスクール」での授業を体験でき、英語力を磨くだけでなく、専門分野に対する興味や視野を広げることができます。将来の留学に向けた「留学体験」ができる、貴重な機会にもなります。

海外でのインターンシップやボランティア

明治大学は「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択を契機に、全学部共通科目「グローバル人材育成プログラム科目」を開設しました。

同科目では、海外連携大学においてビジネスやコミュニケーションに関する特別講義を受講した後に、海外の日系企業や現地企業及び団体において、2週間もしくは4週間のインターンシップに従事する「短期海外実習」(1単位)、「海外実習」(2単位)を開講しています。

また、より長期の実習プログラムとして、米国ワシントンセンターと連携し、同センターが提携している現地民間企業や米国政府機関におけるインターンシップや、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画(The United Nations Volunteers)」を通じて、開発途上国における同機関事務所における実務実習を実施する「長期海外実習」(8単位)、「海外実習課題研究」(4単位)を開講しています。

大学の世界展開力強化事業

～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～

プログラム名称 日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

「日本ASEAN実務型リーダー」とは？

将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本と東南アジアとの懸け橋となりうる人材を日本とASEAN諸国の双方に育成することを目的としています。

「日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム」とは？

ASEAN地域の協力大学17大学との国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラムやタイ・バンコクに設置した「明治大学アセアンセンター」での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し530名及びASEAN側学生受け入れ515名、合わせて1,000名を超える学生交流を目指します。

国際共同コンソーシアムの協力大学17大学とは？

以下の協力大学と様々な学生交流プログラムを実施します。



- インドネシア大学
- バンドン工科大学
- ラオス国立大学
- マラヤ大学
- マレーシア工科大学
- フィリピン大学ディリマン校
- アテネオ・デ・マニラ大学
- シンガポール国立大学
- チュロンコン大学
- シーナカリンウィロート大学
- キングモンクット工科大学ラカバン校
- カセサート大学
- 泰日工業大学
- ハノイ貿易大学
- ハノイ国家大学外国語大学
- ホーチミン市国家大人文社会科学大学
- デ・ラ・サール大学

プログラムの特徴 日本と東南アジア双方の言語、文化、制度等に関する「日本ASEANリテラシー」を学生たちに修得させるため、以下の取組を推進しています。

- ◎ 交換留学による相手国の言語、文化、制度の直接体験の機会提供
- ◎ 本学とASEAN側連携大学の学生による合同研究セミナーの開催
- ◎ 日本ASEANリテラシー醸成を目的とする共通科目群の設置
- ◎ 日本人学生によるタイ語などの東南アジア言語の講義履修促進
- ◎ ASEAN側学生に対する明治大学アセアンセンターでの渡日前日本語教育

3つのグローバル人材育成プログラム

明治大学アセアンセンター

明治大学 アセアンセンター 概要

明治大学アセアンセンターは、バンコクのスクンビット地区にある本学の学術交流協定校、シーナカリンウィロート大学のキャンパス内に所在しています。

バンコクの空の玄関口であるスワンナプーム国際空港からは西に25kmほどの場所にあります、タクシーでの所要時間は40分～1時間です。

明治大学アセアンセンターでの学生交流プログラムの様子



政治経済学部SWUプログラム・SWU付属
プラサーミット高校でのSEND活動



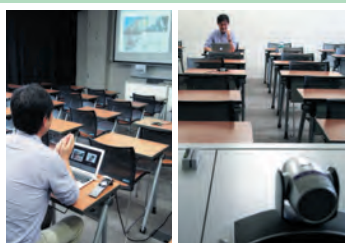
農学部「国際農業文化理解プログラム」
FAOで模擬国連会議開催



理工学研究科建築学専攻・チュラロンコン
大学との共同ワークショップ

遠隔講義システムによる授業

和泉キャンパス (講師側)



遠隔講義システムは可動式のものもあり、
一般教室にも設置が可能

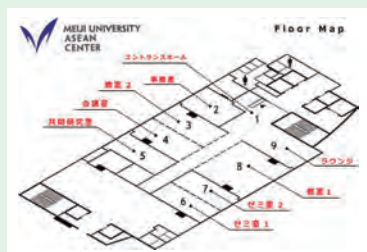


インターネット回線経由で
リアルタイムで接続。
多地点を繋ぐことも可能
(例) 駿河台・生田・和泉・中野と
アセアンセンターを同時
に繋ぎ、各所で受講する
ことも可能

明治大学アセアンセンター (受講側)



アセアンセンターの講師が適宜、受講学生
をサポート



住 所	114 M.L. Pin Malakul Building 10th Floor, North-Klongtoey Wattana, Bangkok 10110, THAILAND (シーナカリンウィロート大学内、サービスビル10階)
電話番号	0-2169-1019, 0-2169-1020 (日本からは+66-2-169-1019又は1020)
F A X	0-2169-1021 (日本からは+66-2-169-1021)
Eメール	macbkk@meiji.ac.jp
開所時間	原則として平日 (月曜日～金曜日) 9時30分～12時、13時～17時 (タイ標準時) ※ 電話でのお問合せも、原則として上記の時間帯にお伺いいたします。 ※ 上記の時間外に利用の希望がある際は、事前にセンターにご相談ください。 Information タイと日本の間には2時間の時差があります。したがって、センターの開所時間は 日本時間で11時30分～14時、15時～19時となりますので、ご注意ください。
休業日	土曜・日曜日、タイの祝祭日及びセンターが事前に定める日

大学間連携共同教育推進事業

プログラム名称 国際機関等との連携による「国際協力人材」育成プログラム

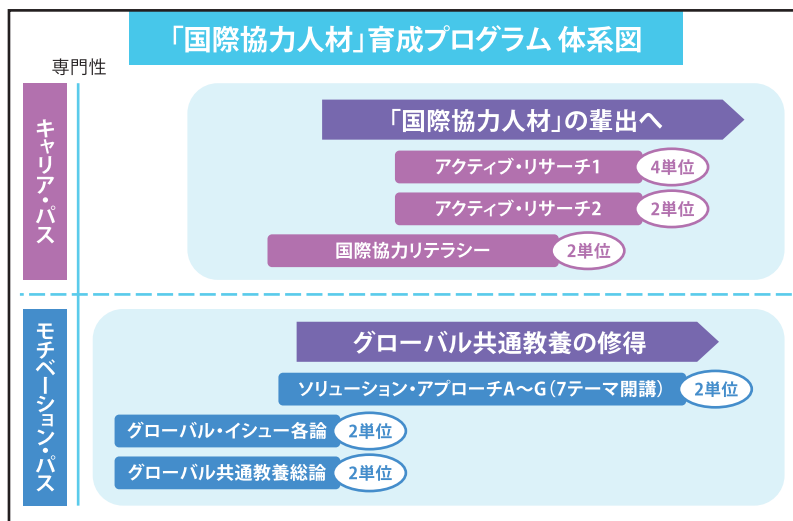
開設趣旨

21世紀を迎えてもなお、国際社会はテロ攻撃、貧困格差の拡大、武力紛争、気候変動、伝染病、経済危機や食糧の安全保障といったグローバル化した課題に直面しています。これらは、国際社会が取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）と言われ、それらの問題を十分理解した上で、多角的なアプローチから解決できる人材が求められています。本プログラムでは、高い専門性を持つキャリアを形成し、国際連合をはじめ、国際機構、NGO、政府、企業等において、多様化するグローバル・イシューに対応、解決できる人材（国際協力人材）の育成を目指すものです。

本プログラムで提供する科目は、国際機関の協力の下、「明治大学」「立教大学」と国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を企図する「国際大学」の三大学が協働し、全て英語を用いた講義で展開します。専門科目を英語で学ぶことで世界に通用する強靱な知識・思考力と英語スキルの獲得が可能となります。

概要

国際協力人材育成プログラムは「モチベーション・パス」、「キャリア・パス」の二つの科目群で構成されています。「モチベーション・パス」は外部講師を招き、オムニバス形式で展開する講座であり、明治大学と立教大学が協働した教育プログラムとなっており、両大学で履修が可能です。また、「キャリア・パス」はさらに国際大学のサポートにより、少人数形式で英語環境におけるプレゼンテーション、ディスカッションといったコミュニケーション力の養成や、フィールド・スタディを行います。パスごとに修了要件もあり、所定の単位数を修得することでそれぞれの修了証も発行します。



プログラム連携機関

- アムネスティ・インターナショナル日本
- グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク
- ヒューマン・ライツ・ウォッチ協会 (HRW)
- 日本国際協力センター (JICE)
- 太平洋諸島センター (PIC)
- 国際連合開発計画 (UNDP)



プログラムの特徴

新たな教育手法・支援ツールとして、以下の取組を推進しています。

- 明治大学、立教大学で開講している授業は、2大学の学生と一緒に受講します。大学の枠を超えた授業です。
- 授業は全て英語を用いて行われます。
- ポートフォリオ (manaba filio) というインターネット上の学習支援システムを活用し、3大学の学生、教職員がSNSのように相互交流できます。
- 一部の授業は撮影し、ポートフォリオ上で受講生向けに公開します。受講生は、PCやスマートフォン等で手軽に復習が可能です。授業動画は一般向けにも公開します。
- 実践的な学びの場として、フィールドワーク形式 (アクティブ・リサーチ 1・2)、合宿形式 (国際協カリテラシー) の授業を「キャリア・パス」科目に設けています。
- 「国際協力人材」として身に付けるべき能力を提示し、年度ごとに主観的・客観的に能力測定する仕組みを設けています (自己評価テスト、PROGテスト)。

国際協力人材育成プログラムは、アカデミック・インパクトに参加する3大学で推進する事業です。アカデミック・インパクトとは、世界の高等教育機関 (主に大学) に対し、国連が人権、識字能力、持続可能性および紛争解決の4つの分野における普遍的な10原則のうち、毎年少なくとも1つの原則を積極的に支持する活動を求めるものです。

学術機関は、アカデミック・インパクトを通して、地球規模の課題解決にコミットします。



「国際協力人材育成プログラム」の一環として、国際連合 (UN) と共催で、日本初となる「模擬国連ワークショップ (MUN Workshop in Tokyo Japan)」を開催しました。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界中の国と地域から総数 150 人の学生と教員らが参加しました。

参加者は、国連総会と安保理の事務規則、討論と決議採、コンセンサスの重要性について理解を深めました。



「スーパーグローバル大学創成支援」の構想で掲げる「世界に飛び出す100の国際プログラム」で、各学部や大学院研究科は様々な特色ある国際化の取組を展開しています。

法学部

留学基礎講座

英語を聞く・話す・書くだけでなく、英語で法律を勉強する、あるいは将来、英語を使って法律の仕事に携わることができるように準備をする授業です。法学部主催の短期海外研修参加希望者を主な対象としていますが、その他の方法で留学を考えている学生の事前・事後学習講座として受講することもできます。



短期海外法学研修

ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ夏期法学研修と、デ・ラ・サール大学春期法学研修の2つのプログラムを実施しています。現地で活躍中の法律専門家による講義や、裁判所・国会議事堂見学など、法学部ならではの特色のある研修です。どちらも講義は英語で行われますが、現地学生によるサポートもあるので語学力に自信がなくても心配はいりません。

Meiji University Law in Japan Program

外国人学生を対象とした、日本の法と法システムの基礎を英語で学ぶ夏期短期集中講座です。講義のほか、国会、裁判所、法律事務所、企業法務部等へのフィールドトリップが予定されています。

法学部生の参加も可能で、プログラムを通じて外国人参加学生と交流することができ、本学(駿河台キャンパス)でプチ・留学気分を味わうことができます。
※単位付与はありません。



商学部

多言語4年間一貫教育

商学部の学生は、4年間にわたる段階的なカリキュラムによって、2つの外国語を習得することが可能です。まず基礎となるのは、1・2年次に行われる《既習外国語(英語)》と《初習外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ロシア語から選択、留学生は日本語の選択も可)》の教育です。加えて3・4年次には、15~20名で学ぶ多彩な選択科目を用意しています。教養に裏打ちされた実践的な語学力を養成するのが、商学部の『多言語4年間一貫教育』です。さらに意欲のある人は全学部の1~4年生を対象として開講されている「学部間共通外国語科目」(11カ国語)も受講し、ネイティブの教員のもとでさらに会話力を磨きましょう。



短期海外研修

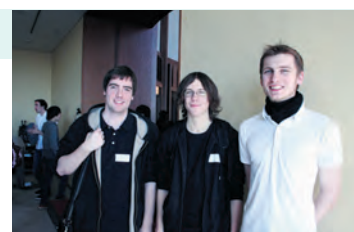


商学部では、夏季と春季に、語学だけでなく専門が学べる海外研修を開催しています。以下■印のプログラムでは《特別テーマ海外研修科目》として2単位が付与されます。

- カナダ・ヨーク大学プレMBAプログラム
- フレンチファッションプログラム
- レンヌ・Managing Cultural Diversity
- ラテンアメリカ異文化交流プログラム
- 日韓ランゲージ・エクスチェンジプログラム

留学生受け入れプログラム

商学部には学部独自の協定校が4校あり、毎年交換留学生を受入れています。(学部間協定校:英・カーディフ大学、独・ブレーメン経済工科大学、仏・パリ商業高等大学、仏・レンヌ商科大学) 交換留学生はゼミに所属し、商学部生と共に、プレゼンテーションや論文作成、学園祭等のイベントに取り組んでいます。また、短期プログラムを通じて、中国・韓国・ブラジル・アルゼンチンからも留学生を受入れています。



政治経済学部

トップスクールセミナー・ACE

世界有数の大学から教員・研究者を客員・特任教員として政治経済学部招聘し、専門科目の一部を担当する「トップスクールセミナー」では、日本にいなから特別な費用をかけることなく、世界のトップレベルの授業を受けることができます。

ACEは通常の英語クラスとは別に設けられた授業科目で、意欲的に英語力を高め、近い将来留学や、英語を必要とする職業を目指す人たちのためのクラスです。



学部独自の海外派遣33プログラム



ノースイースタン大学(米国)を初めとする4つの短期留学、カリフォルニア大学サマーセッション(米国)やロンドンスクールオブエコノミクス(イギリス)を初めとする8つの中長期留学、北京大学(中国)、チュラロンコン大学(タイ)、国際インターンシップを含むロッテルダム応用科学大学(オランダ)を初めとする19の協定留学プログラム、さらに5年間で学士と修士の学位が取れるテンプル大学(米国)とのデュアルディグリープログラム、4年間で2つの学士を取得できるノースイースタン大学とのダブルディグリープログラムがあります。

留学生サポーター制度

毎年、留学生との交流の中心となる「サポーター学生」を募集しています。山中セミナーハウスでの合同ワークショップへの参加や学習のサポート、観光案内など様々な交流の機会があります。留学をしなくても、同世代の海外学生と親しくなれる絶好の機会です。また、留学生を「明治大学ファン」にする機会にもなっています。



文学部

レベル別英語教育・テンプル大学ジャパン単位互換制度

文学部では、2015年度入学者よりTOEIC®スコアによるレベル別の英語教育を導入し、各学生の英語の習熟度を考慮した教育を实践予定です。

また、2014年度に東京・麻布にあるテンプル大学ジャパンキャンパスと単位互換協定を締結し、要件を満たした文学部生は東京にいなからアメリカ式の授業を経験する事が出来ます。



海外ゼミ合宿・文学部独自の協定校



文学部では、教員引率による海外ゼミ合宿を奨励しており、今までフランス、中国、韓国など各地でゼミ合宿を实践してきました。

また、文学部には現在、学部独自の協定校がバンベルク大学(ドイツ)、ビーレフェルト大学(ドイツ)、北京師範大学(中国)、高麗大学(韓国)と計4校あり、学部間による協定留学を推奨しています。

外国人留学生受入

文学部では、独自の取り組みとして毎年6月頃に外国人留学生と教職員とのランチ会を和泉キャンパスで実施し、外国人留学生との意見交換を行うことで、外国人留学生受入環境の向上に努めています。

また、学部独自の協定校や大学間の協定校からの外国人留学生も積極的に受入れています。



理工学部

アルク ネットアカデミー

アルクネットアカデミーは、TOEIC®試験に対応できる英語力を養うことを目的としたオンラインの英語学習システムです。スタンダードコース、技術英語コース、英文法コース等のコースに分かれており、それぞれのコース内に、リスニング、リーディング、語彙力等の強化のための問題が用意されています。学生は自由に本システムを利用することができ、必要な設定を行えば自宅のパソコンから利用することも可能です。

国際実習

理工学部の複合領域専門科目として、2015年度より「国際実習」を設置します（※本科目に単位が付与されるのは2016年度からです）。

この科目では、国際的に通用する職業人になるための訓練として、理工学を通じて、異文化を理解し、実習実施国の語学の初歩をマスターすることを目指します。

実習を行う国において語学や文化の講義を受講し、また、現地企業や大学を見学することによって、日本との関係を学ぶとともに、その国への理解を深めることを目的としています。

学部主体で実施するプログラムは春学期に説明会が開催されるので、履修希望者は必ず説明会に参加してください。学科主体で実施するプログラムは学科で開催される説明会に参加してください。

学部間協定留学

理工学部には、学部独自の協定校が10校11学部あります（2014年12月現在）。いずれの協定校とも活発に研究交流を行っており、また、10校のうち7校（下記一覧の※印がある協定校）の協定校へは、半年から1年間の協定留学をすることができます。留学で修得した単位は、本学部の卒業要件として単位認定の申請をすることが可能です。

- (1) チュロンコン大学(タイ) ※
- (2) シンガポール国立大学(シンガポール) ※
- (3) 国立台湾科技大学(台湾)
- (4) 弘光科技大学(台湾) ※
- (5) 国立台北科技大学(台湾)
- (6) ケープタウン大学(南アフリカ)
- (7) パリ国立建築大学(フランス) ※
- (8) パリ・カトリック大学(フランス) ※
- (9) ヴッパタール大学(ドイツ) ※
- (10) オレゴン大学(アメリカ) ※

外国人留学生の受け入れ

理工学部には、2014年5月現在、学部80名、大学院34名の留学生が在籍しています。本学部は、マレーシアとの留学生受け入れプログラム（3年間現地で教育を受けた学生が、編入学試験を経て、理工学部3年次に入学する教育システム）にも積極的に取り組んでいます。

農学部

学部間協定校【タイ】 カセサート大学・シーナカリンウィロート大学

カセサート大学はタイ初の農科大学であり、総合大学となった現在も農学分野は特に有名です。カンペンセン校のキャンパスは首都バンコクから車で約1時間半程の郊外にあり、キャンパス内は広大で農場・温室・牧場等の農学系施設が充実しています。

一方シーナカリンウィロート大学はシリントーン王女も学んだ由緒ある大学です。農産物革新・技術学部を含む自然科学系の理系学部はナコンナーヨック県にあるオンカラックキャンパスを利用し、バンコクから車で約1時間程の郊外にあります。



学部間協定校【アメリカ合衆国】 ハワイ大学

ハワイ大学マノア校は1907年に創立し、ハワイで最も知名度の高い大学です。マノア校のあるオアフ島は非常に特殊な熱帯環境条件下にあるため、熱帯農学分野において最先端の研究を行っています。キャンパスはホノルル・ワイキキビーチから近く、生活がしやすい場所にあります。非常に広大で、自然あふれる綺麗なキャンパス内にはスタジアムを始め多くの施設があり、キャンパス内外には留学生寮も完備されています。

国際農業文化理解プログラム

国際農業文化理解プログラムは農学部独自の短期留学プログラムです。約10日間程タイに滞在し、農学部ならではの海外農場・市場・工場でのフィールドワーク、FAOアジア太平洋地域代表事務所での模擬国連会議、学部間協定校の学生とのワークショップなどを通じた学習や体験、交流をすることで日本とは異なる風土・文化・歴史・言語・ライフスタイルなどを現地で実感できる有意義なプログラムです。



経営学部

GREAT(Global Resources English Applied Track)

海外留学をめざす学生や国際ビジネスの分野での活躍をめざす学生のために、入学時に実施されるTOEIC®のスコアの上位60名を対象に、4年間でグローバル経営人材育成を図るプログラムです。

学生の多様なニーズに対応するためのOpt in/Opt outシステムや、経験豊富なネイティブ・日本人教授陣によるティーチングチームがGREATのために設定・結成され、学生をサポートする万全の体制が整っています。



グローバル・サービスマーケティング

本科目は、海外で約2週間のボランティア実習を行う経営学部独自のプログラムです。その前身は2013年度から実施されてきた経営学部国際ボランティアプログラムで、2015年度から単位(2単位)を取得できるようになりました。

開発途上国を含む海外の様々なコミュニティを拠点に、年に2回(夏季休暇・春期休暇)実施しています。

IBP Plus (International Business Program Plus)

本プログラムは、2002年度から実施されてきた経営学部独自の夏休み・春休み期間中の4週間を利用した海外短期留学プログラムです。プログラムには、ビジネス英語の授業のほかにホームステイ、フィールドトリップ、企業訪問などが組み込まれています。

さまざまな異文化体験を通して視野を広げ、自己を発見・再発見し、将来に対する展望、そのための具体的な道筋へと繋がる可能性を秘めたプログラムで、2015年度から各3単位が取得できるようになりました。



情報コミュニケーション学部

SPICE Special Program for Information and Communication in English

国際情報社会に対応できる言語力とコミュニケーション能力を身につけた学生を育成するため、学部独自の特別英語クラス「SPICE」プログラムを2014年度より設置しました。昨今では直読直解や単なる会話以上の議論ができる能力が求められてきています。SPICEは、ネイティブ・スピーカーの教員の下、少人数選抜クラスで実践的な授業を行い、海外大学(院)への留学や国際的な視野を有した学生の育成を目指します。

(2014年度以降入学者から対象。選考あり。)



国際交流(短期派遣プログラム)

夏季休業中、約2週間の派遣プログラムが実施されます。派遣先はシーナカリンウィロート大学・モンクット王ラカバン工科大学(タイ)、メンフィス大学(アメリカ)、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学(ベトナム)(2014年度実績)。参加者は「国際交流」(2単位)の単位を修得することができます。語学研修だけでなく、各プログラムが実施する文化交流・学習や企業訪問をとおして、異なる文化を尊重する態度を養い、国際社会で活躍する人材の育成を目指します。

国際交流(短期受入プログラム)

国際交流の派遣プログラムに対する受入プログラムでは、タイ・ラオスおよびベトナムから日本語を学習している学生を約3週間受け入れます(2014年度実績)。

「国際交流」履修者はサポーターとして、受入学生が参加する授業での学習や日本での生活をサポートします。日常的な交流以外に、セミナーハウス合宿や企業訪問等のプログラムを受入学生とともに参加するため、活発な文化交流が行われます。



国際日本学部

オフィス・アワー／英語選択科目

国際日本学部では、英語のネイティブ・スピーカー教員によるオフィス・アワーを設けています。英語学習に関する質問・相談や、ネイティブ・スピーカーとの会話の実践の場として、自由に参加することができます。

また国際日本学部では、英語の各技能を伸ばす学部独自の英語選択科目を開講しています。オフィス・アワー、語学・資格取得サポートとあわせて活用してください。



アカデミック 留学・海外インターンシップ・プログラム

国際日本学部独自の「アカデミック 留学・インターンシップ プログラム」では、大学の正規課程で講義を履修するキャンパスライフ中心の留学や、米国フロリダ州のウォルト・ディズニー・ワールドやハワイ州の観光業界においてインターンシップを体験できる留学など、半年から1年間のさまざまなプログラムを提供しています。また、夏期休暇を利用した約4週間の短期語学留学プログラム(アメリカ、イギリス、カナダ)も設置しています。

国際交流学生委員会

国際日本学部の学生団体である「国際交流学生委員会」では、さまざまな交流イベントを実施しています。毎年4月・9月の新入留学生歓迎会をはじめ、ハロウィンやクリスマス、日本文化を紹介する行事など、日本人学生・留学生と一緒に楽しみながら交流できるイベントを企画しています。

また、新入留学生が日本での大学生活をスムーズに送ることができるよう、サポーターとしても活動しています。



総合数理学部

英語でプレゼンテーションを行う力を身につけ世界へ向けて発信を

2013年度からスタートした総合数理学部の英語教育カリキュラムでは、1年生から3年生まで英語が必修科目となっています。その特徴は大きく2つあります。

① 専門科目の内容を英語で学ぶ

1年生の段階から、理系分野で使われる語彙や文章構造をしっかりと学習します。扱うテーマは数学や情報技術に関するものが中心となりますが、広い視野を構築するため、様々な教材や教授法を取り入れたカリキュラムを展開します。

② 英語で発信する力をつける

1年、2年では英語で発表を行う土台となる演習を取り入れていきます。3年次には卒業研究や大学院進学、および就職後の活動につながるような、英語でのプレゼンテーション能力養成を集中的に学習します。



語学・資格取得サポート

学生全員が年に1回、TOEIC®IP受験をすることになっています。定期的に自分のリーディングとリスニング力を測りそれを記録することが、英語学習のモチベーションや奨励になるからです。スコアは1年と2年の必修英語科目においては、授業のクラス分けに使用されます。また選択科目であるEnglish Test Preparationの履修に際しても用いられることがあります。

English Test Preparation ではTOEIC®受験の対策を行います。文法力やリスニングのこつなど、英語力全般の向上にも役立つ演習が行われます。



1年

- 4技能に置けるコミュニケーション能力
- Independent Learnerになるための手立て
- 科学分野の語彙習得

2年

- 英語の情報を集め、内容を理解し、評価する能力の養成
- 英語での論理的思考能力の養成
- 文法、語彙の維持と発達
- 資格試験対策

3年

- プレゼンテーション能力養成
- 専門分野におけるコミュニケーション養成
- Language learner から language user へ

大学院

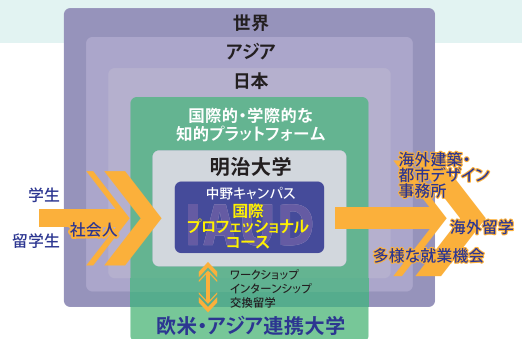
ダブルディグリー・プログラム

経営学研究科では、2010年度からマレーシア工科大学 (UTM) と、2013年度からウソン大学ソルブリッジ国際経営大学院 (SISB) とダブルディグリー・プログラムを実施しています。相手方大学における学費等はかからず、経営学研究科に在籍しながら同時に相手方の大学に正規生として入学し、双方の大学の修了要件を満たすことにより、両大学の学位(修士)を取得することができます。



建築学専攻 国際プロフェSSIONALコース

理工学研究科建築学専攻では、2013年度から国際的に活躍できるグローバルレベルの専門家を育成する「国際プロフェSSIONALコース」を開設・展開しています。このコースでは、完全英語教育としており、またワークショップ・ディスカッション重視の欧米スタジオ形式のインタラクティブ指導も実践し、グローバル社会への対応と多国籍学生を対象にした教育の多様化を図っています。



グローバル・ガバナンス研究科

グローバル・ガバナンス研究科は、2014年度に設置された新しい研究科で、完全英語教育による博士後期課程プログラムです。海外からの留学生はもとより、国内からも国際公務員・国際NGO専門家などを目指す人々を受入れ、地球規模の諸問題(グローバル・イシュー)の解決に貢献できる高度な公共政策のプロフェSSIONALを育成しています。



グローバル・ガバナンス研究科
開設シンポジウムの様子(2014年12月6日開催)

国際的な研究活動を実践するための共通科目

研究活動のグローバル化の進展に伴い、大学院生においても外国語による研究を可能とする能力の習得が求められています。こうした状況に対応して、大学院では、英語による論文の執筆や研究発表に向けた科目として「学術英語コミュニケーション」と「英文学術論文研究方法論」を設置し、国際的な舞台で活躍できる能力を育成しています。どの研究科の学生も履修できる共通科目としており、英語運用能力のレベルに応じた複数のクラスを開設しています。

国際化に向けた大学院生への各種助成制度

大学院では、研究活動支援の一環として各種助成を行っていますが、国際化にかかわる支援も次のとおり用意され、多くの学生に活用されています。

- ◇学会研究発表助成・海外研究プログラム助成(国際学会発表時の渡航費等助成)
- ◇外国語能力検定試験受験料助成
- ◇英文学術論文校閲料助成
- ◇留学予定者語学講座受講料助成

世界都市東京からの新たな知の創造拠点

明治大学の特徴ある取組みは、主体的学びを基盤とし、研究と教育を有機的に結びつけた、世界都市東京からの新しい知の創造です。「都市型」とは単に東京の真ん中に位置しているということではなく、産業界・官庁との連携、情報の集積・発信がなされることを意味します。様々な研究機関が外部資金を獲得し、実践的研究を広く行っています。いずれも、都市と地域・地方をつなぐ拠点であり、教育研究交流のハブ機能を有しています。世界に開かれた大学として、様々なステークホルダーと連携して新たな知を創造し、大学院プログラムと連携して教育・研究を高度化し、未来開拓力のある人材を輩出していくと同時にその成果を日本の大学全体に広げていきます。

特色ある研究拠点

先端数理科学インスティテュート(MIMS)

MIMSは、社会及び自然に現れる様々な現象解明に向けた数理科学の発展・普及を図るとともに、若手研究者に対して数理科学に係る研究指導、啓発教育等を行うことにより、先端数理科学の分野における傑出した国際的研究拠点を形成することを目的としています。2014年度には、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定される(拠点名称「現象数理科学研究拠点」)など、国内外の研究機関等と連携し、国際会議、国際ワークショップ等を開催しています。2015年1月1日には、「数学及び生物医学分野における反応拡散ネットワーク」として、フランス国立科学研究センター(CNRS)のほか、韓国、台湾などの6研究機関と国際研究ネットワーク(GDRI)設立に関する研究協定を締結しました。

国際総合研究所(MIGA)

MIGAは、大学に基盤を置くシンクタンクとして2011年に設立され、流動する世界情勢を踏まえ、安全保障と世界経済の持続的成長及び諸問題解決のため、産官学連携で政策提言を行っています。「米中関係」「中東に関する現状分析・調査」「東アジア経済統合」「EU研究」「サイバーセキュリティの国際動向」などを研究テーマに、ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)等海外の研究機関・研究者との連携を重視して研究活動を推進しています。また、海外の研究者・有識者を招き、国際シンポジウムを定期的で開催しています。



バイオリソース研究国際インスティテュート(MUIBR)



MUIBRは、本学を中心に国内外の大学・研究機関・企業等の有機的ネットワークによって構築された国際研究組織です。農学、特にAnimal Biotechnologyを基盤として次世代の医療技術開発に貢献する生物資源の創出・活用等を行うことを目的としています。遺伝子改変ブタやクローンブタという本学独自の研究資源を活用した農工連携研究を行い、人類の健康に直結する重要課題に取り組み、世界に向けて情報発信を続けています。2015年3月にはゲノム編集技術で世界をリードする研究者を招き、シンポジウムを開催しました。このように、臓器再生、希少・難治性疾患の原因解明や治療法の開発、高齢者の健康の鍵を握る骨・軟骨障害の克服など、社会の抱える大きな課題に応じて、未来の医療を実現化する研究開発を推進しています。

黒耀石研究センター

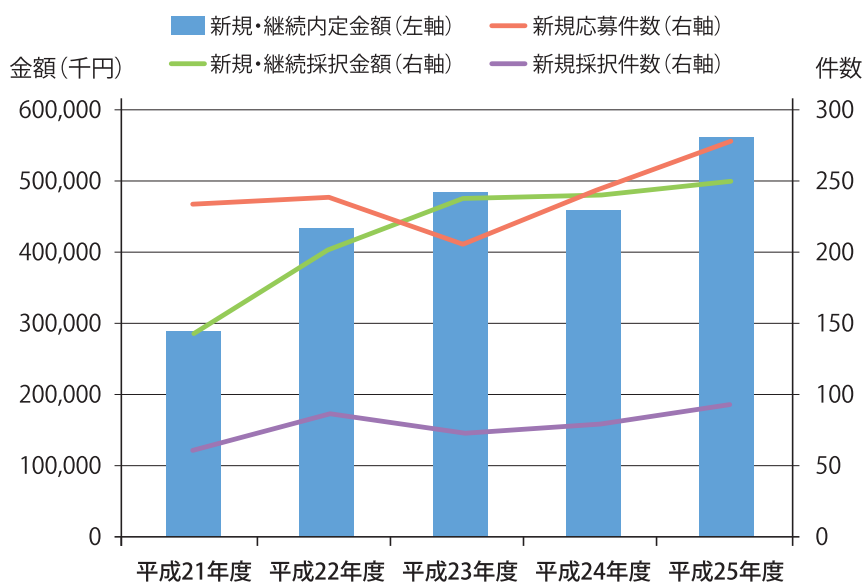
研究・知財戦略機構の附属研究施設である黒耀石研究センターは、「ヒト・資源環境系」という概念のもとに、考古学、地質学、古環境学、文化財科学に関連する横断的な研究プロジェクトを立ち上げ、黒耀石を含む多様な資源に対する人類の働きかけのダイナミズムに関する研究を推進しています。黒耀石研究の国際ネットワーク拠点の役割を担い、ロシア・中国・韓国・アメリカ・ウクライナ等の関連研究機関等と連携し、国際共同研究、ワークショップ等を開催しています。近年ではロシア極東地質学研究所、イタリアの黒耀石博物館とも研究交流協定を締結し、共同研究や講演会等を実施しています。



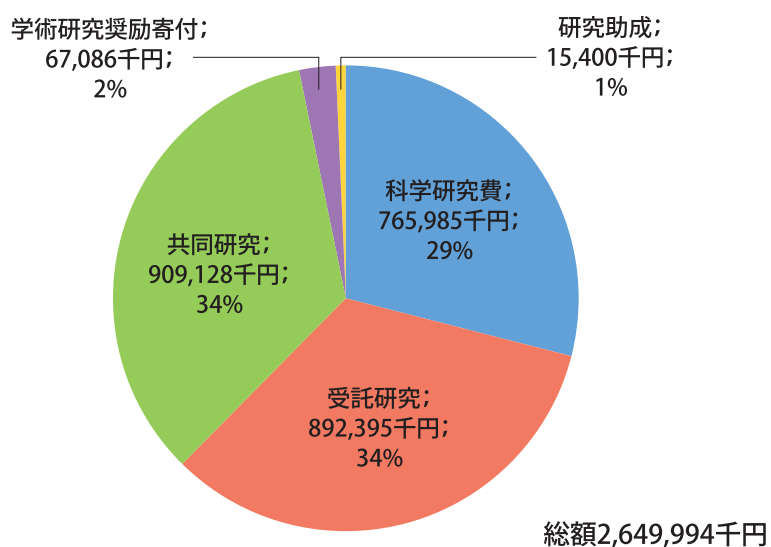
明治大学の研究力

文部科学省の「科学研究費助成事業」は、人文科学、社会科学、自然科学のあらゆる分野の学術研究を発展させることを目的とする競争的研究資金です。明治大学ではここ数年、金額・件数とも顕著な伸びが見られ、多様な領域で新しい知の創造に活発に取り組んでいます。また、外部（産業界や官庁、海外大学・研究機関など）からの受託研究、外部との共同研究も増えつつあり、それぞれ、本学における外部研究資金受入総額のおよそ3分の1に達しています。

科学研究費助成事業実績（過去5年、初回交付内定時）



外部研究費受入実績（2013年度）



都市型大学としての研究強化

本学の特徴は、国際化の実績、都市型大学、規模と多様性、実学と行動力ですが、これらの特性を踏まえた本学の取組みは、研究と教育を有機的に結びつけた、世界都市東京からの新しい知の創造です。

都市型とは単に地理的に利便だというだけでなく、産業界・官庁との連携、情報の集積・発信がなされることを意味します。産官学連携の具体的なものとして、新たに設置された国際総合研究所が政策提言を行っており、安全保障、中東研究などについて、実践型研究を行っています。また、中国社会科学院と、金融規制についてシンポジウムを行い、日本銀行、金融庁などとともに教員が学術的議論を行いました。

明治大学は、WC2と呼ばれる世界都市大学連盟の唯一の日本代表大学として、持続可能都市研究を中心とした国際共同研究を東京都などとも連携して進めています。WC2(世界都市型大学ネットワーク)とは、World Cities, World Classの略で、City University London, The City University of New York, Technische Universität Berlinなどが参加する、世界の主要都市にある大学の連合体として、現在12ヶ国の12大学により構成されています。都市大学としての理念を共有し、5つのクラブ(Transport, EcoCampus, Health, Global Culture, Business)に分かれて共同研究を行っています。

世界に開かれた大学として、以上のように様々なステークホルダーと連携して新たな知を創造し、同時に、大学院生を積極的に参加させることで教育にも活かして、大学院強化を進めています。



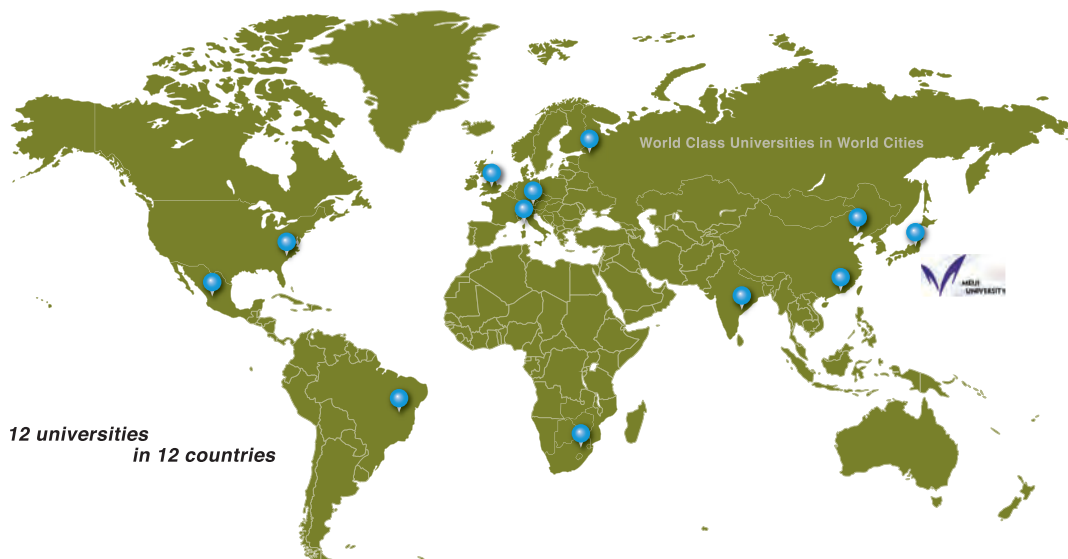
WC2会議(於ミラノ工科大学、2013年10月)

国際大学間ネットワーク

“World Cities, World Class University Network”(WC2)



- ✓ 世界の大都市の都市型大学のネットワーク
- ✓ 英国の City University London (CUL) が主導で形成
- ✓ 大都市が共通に直面する課題をいくつかの“Club”に分け、研究交流(交通分野・サステナビリティ等)を進める





明治大学 教学企画事務室

TEL.03-3296-4403 TEL.03-3296-4353

<http://www.meiji.ac.jp/>